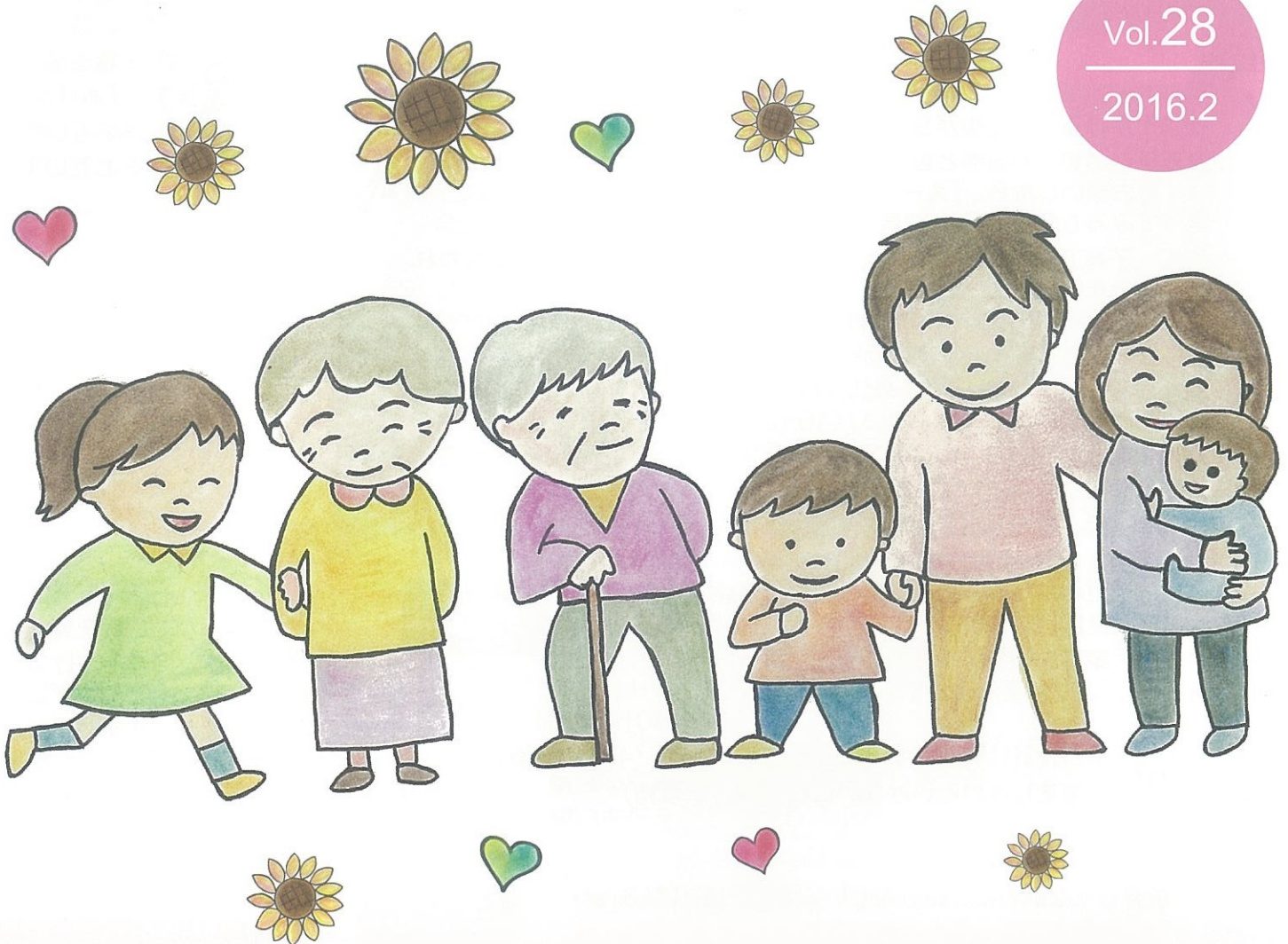


はーと・シップ

「はーと・シップ」はハートフルシティとパートナー・シップを合わせて小野市の男女共同参画を表す愛称としています。

Vol.28

2016.2



特集

『居心地の良い家庭を考える』

家庭という居場所の中で、
自分自身の居心地のよさとは？
家族の本音をのぞいてみるため、
男性・女性・子どもにアンケートを行いました。



寄稿

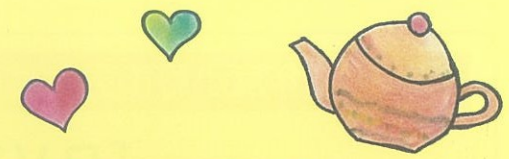
自分らしい生き方を育む家庭

勝木洋子さん

(神戸親和女子大学発達教育学部
児童教育学科教授)



居心地の良い家庭を考える



今年度の男女共同参画センターのテーマ『男性および子どもにとっての男女共同参画』にもとづき、次代を担う子どもたちが健やかに育ち、個性と能力を発揮するために重要となる「家庭」について今一度考えてみよう、アンケートを行いました。

Q1. 「男だから」「女だから」という理由で、家庭内で嫌な思いをしたことはありますか？あればどんなことですか？

女性

- ・夜に出かけることを嫌がられる。(20代・既婚)
- ・食器洗いの担当が自然と自分になっていたが、ある時洗い物をしたくなくてお願いしたら、「えー」と言われた。でも言ったらしてくれた。言ってみるものだ。(30代・既婚)
- ・夫に、子育てについて「あなたの考え方が悪い」とストレートに言われ、腹が立った。(30代・既婚)
- ・男はいいが、女はダメという発言。女は家事をしていればいい、外で仕事をするなという言葉。(30代・離別)
- ・女だから、家事は全部しないとイケない。夕方になるとご飯の支度のため、家に帰っていなければならない。(40代・既婚)
- ・炊事に関して、しんどい・面倒くさいと言うと、女のくせにそんなことを言うなと言われた。(60代・既婚)

男性

- ・ゴキブリ等の害虫駆除、庭の糞掃除は男の役目という暗黙の空気がある。(30代・既婚)
- ・家事をしていることを会社で言ったら、「お前家事なんかやってるの？」とびっくりされる。(30代・既婚)
- ・町の役員は男性がするという空気がある。(40代・既婚)
- ・仕事をしないとイケないこと。(50代・既婚)

子ども

- ・自分じゃないのに、自分のせいにされた時。(小3・女)
- ・先にお風呂に入ったら、妹が気持ち悪がってくる。自由にお風呂に入りたい。(中2・男)
- ・友だちやきょうだい、親戚と比べられること。(中3・女)
- ・家族同士で誰かがケンカしている時。(中3・女)
- ・男子だから手を出すなどと言われるけれど、女子だったらいいのかとたまに思ってしまう。(高2・男)

女性

- ・細かい事まで口出ししないようにしているが、お願いしてできることはしてもらう。(30代・既婚)
- ・寝る前などにできる限り話をする。(30代・既婚)
- ・「ありがとう」という。してもらって当たり前と思わない。(30代・未婚)
- ・お互い束縛せず、行動は時々一緒。(50代・既婚)
- ・お互い干渉しすぎない。(50代・既婚)

男性

- ・家事を分担する。(20代・未婚)
- ・子どもに関しては、自宅では性別をもとに強制したり育て方を変えたりはしていないが、どうしても保育園で「男の子だから泣かない」と言われているようだ。そんなときは、「男の子だって泣いていいんだよ」とフォローしている。(30代・既婚)
- ・「ありがとう、おはよう、おやすみ、ごめん」など、基本的なあいさつをちゃんとする。お互いの家事について気づきや改善点は言うが、文句を言わない。気分が悪い時やイライラしている時は伝染するので、なるべく会わない。(30代・既婚)
- ・妻の話をよく聴くこと。(40代・既婚)
- ・笑うこと。(50代・既婚)

子ども

- ・マイペースに普通に気持ちを表す。(小4・男)
- ・みんなでご飯を食べること。(小学・女)
- ・家族とできるだけコミュニケーションをとるようにしている。些細な事で怒らずに、揉め事はキレイに静かに鎮圧させる。(中2・男)
- ・家族と話す時間を増やす。ゲームなどの話をするのではなく、学校であったことや友だちとどんな話をしたのかなど、ゲームを知らない人にも楽しんでもらえるような話をする。(中3・男)
- ・パソコンやスマホ、テレビを見すぎないようにして、家族と会話する機会を作るようにしている。(中3・女)
- ・あまり意識しないこと。(中学・男)
- ・良いところを言う。嫌な事を言わない。(中学・男)
- ・相手を傷つけないように話す。(高2・男)
- ・お母さんが怒っている時に関わらない。(高3・女)
- ・そもそも家族は気を遣うような関係ではないと思っているので、特に何か意識するということなく過ごしている。(高3・女)

アンケート結果を見て、感謝の気持ちは持つだけでなく伝えることが大切だと感じました。時には、ひとりひとりが想いを伝え、ぶつかり合いながらもお互いの考えに気づき、認め合う。そのような経験ができるのが、まず「家庭」です。みんなが笑っている、そんな家庭を築いていきたいですね。男だから、女だからという区別なく、個性を発揮できる居心地のよい家庭から、社会へとつながっていくのではないのでしょうか。

自分らしい生き方を育む家庭

寄稿：勝木洋子さん

(神戸親和女子大学発達教育学部 児童教育学科教授)

その昔、女子学生は銀行等の就職試験さえ受けさせてもらえない、仮に就職できても二十五歳を過ぎると「肩たたき」といった時代がありました。働く女性は下働きで男性の企業活動を支え、その後、結婚し寿退社、家事・育児・介護で家族生活を支えるのが、大多数の生き方でした。

さて時は流れ、高度成長期、バブル崩壊へとたどりますが、女性は社会に出て「稼げる女性」に変わっていききました。単身三十歳未満の男女では、女性の可処分所得(二十一万八千八百円/月)は男性のそれを二千六百元上回り、初めて逆転しました(総務省「〇〇九」)。女性が働く機会も給与水準も向上という産業構造の変化から、日本の男女の賃金格差が転換したのです。しかし、女性は三十歳を過ぎると結婚や出産などに伴って仕事を辞めます。時は流れても多様な女性の生き方はモデルがないので、収入が下がる「M字カーブコース」を選択せざるを得ません。

世界は「女性の健康と福祉が充実し、人権が守られる国」でなければ、男女が協働しその国の発展をめざすことができないということがわかってきました。しかし日本はつい最近まで、女性の人権にかかわる問題(セクハラ、DV)も未開発国でした。学生には「あなたを養ってくれ、人はどこにもいない。人生最大のリスク回避は働くこと」と伝えていきます。

では私たちは、今後何を課題と考え、何をめざせばいいのでしょうか。

日本は、まだ「女性の活躍促進後進国」です。しかし女性の収入水準が高まれば、男女ともに働き続ける意欲が高まり、さらに少子高齢化で減少する労働力人口を補うとともに、収入増による消費意欲が生まれ、経済効果も上がることが期待できます。

そのためには、働き方の改革、仕事と育児の両立支援、ワークライフバランス、イクメン、待機児童ゼロ等々、単に女性就業だけの問題ではなく、男女の意識改革や社会の環境整備が必要になってくるのです。

子どもたちが「男女期待」とらわれず、「すのこみ」や「思い込み」に気づき、「あなたはありのままがいい」「自分らしく、自分を大切に」と伝える場が大事になります。その場を第一義に担うのが、家庭です。自分らしくすべての人が自己実現をめざせる、やさしい社会をつくるのは、まずは家庭からです。

「DV家庭で育つ子どもたち」 ～誰もが生まれてきてよかったと思える社会に～

【講師】 有園 博子 さん（兵庫教育大学大学院教授・臨床心理士）

DV被害者母子への心理的支援に関する研究や、子どもの心的外傷体験に関する研究などに携わっておられる有園博子さんの講演会を開催しました。

有園さんからは、親が配偶者に暴力をふるったり、暴言を浴びせたりする場面を子どもたちが目撃する「面前DV」についてお話があり、子どもにDVを目撃させることは児童虐待であり、子どもを巻き込む暴力になると解説されました。

さらに、DV家庭で育つ子どもたちの自尊心の損失に関することや、長期間の暴力が子どもの脳に与える影響についても分かりやすくお話いただき、参加者は熱心に耳を傾けていました。また、怒りがこみ上げた時の呼吸法や、自分の気持ちを相手に伝える際には、「私は〇〇してほしい」という【I（アイ）メッセージ】を用い、相手にしてほしいことを明確に伝えることの有効性などを紹介いただき、私たちが暴力防止のためにできる具体的な行動についても学ぶことができました。



セミナーインフォメーション

■再就職チャレンジ講座

「ここが知りたい！再就職のためのあれこれ」

- ①2月 8日（月）10:30～12:30 求人票を読み解き、自分の適職を見つけよう
- ②2月15日（月）10:30～12:30 過去のたな卸しから未来の自分をを見つけよう

■啓発セミナー

「男の悩みホットライン相談現場からの報告～仕事、家庭、生き方～」

2月 7日（日）10:00～12:00

「あきらめないで思春期の子どもとの関わり～専門員から聞く思春期のあるある～」

2月20日（土）13:30～16:00

無料相談窓口案内

○市外の相談窓口もご利用いただけます。

実施機関	種類	所在地	電話番号	実施日時
小野市男女共同参画推進グループ	女性のための相談	小野市中島町72 小野市うるおい交流館 エクラ内	電話相談 <small>（随時）</small> 0794-63-8250	木曜日 9:30～11:30
			面接相談 <small>（予約制）</small> 〃	木曜日 13:00～16:00
			※託児ご希望の方は、ご相談ください。	
北播磨総合医療センター	女性のための医療専門相談	小野市市場町926-250 北播磨総合医療センター内	面接相談 <small>（予約制）</small> 0794-88-8800	木曜日 13:30～16:00
小野市 ヒューマンライフグループ	いじめ等相談 （ONVOまわりほっとライン）	小野市役所内	電話・面接相談 <small>（随時）</small> 0794-62-4110	月～金曜日 9:00～17:00
兵庫県立男女共同参画センター	女性のためのなやみ相談	神戸市中央区 東川崎町1-1-3 （神戸クリスタルタワー7階）	電話相談 078-360-8551	月～土曜日 9:30～12:00 13:00～16:30
			面接相談 <small>（予約制）</small> 078-360-8554 （予約専用電話）	月～金曜日 11:00～18:40 土曜日 9:20～16:50
	男性のための相談	電話相談 078-360-8553	原則第1・3火曜日 17:00～19:00	
兵庫県「悩みのほっとライン」	女性のための悩み相談	—	電話相談 <small>（随時）</small> 078-732-7700	毎日 9:00～21:00
日本司法支援センター（法テラス）	法的トラブルに関する情報提供	—	電話番号 0570-078374	平日9:00～21:00 土曜日9:00～17:00

編集後記

今号より新しく仲間を迎え、毎回楽しく編集してきました。時には楽しすぎて話がテーマから逸れることもありましたが、そんな話の中にも、いえ、そんな話の中にこそヒントがまわっていて、誌面に活かせたのだと思います。

今回アンケートを行ってみて、年代や性別によっていろいろな嫌な思いがあること、またその受け止め方も様々だということが分かりました。意外にも子どもたちはしっかりと大人を見ていて、さりげなく心配りをしているなということも。

また、相手が大人であっても子どもであってもお互いいいところを見つけたら、自分の中に取り入れて真似してみよう、とも思いました。読んでいただいた方にも、何か小さな発見をしていただけたらとても嬉しいです。

今回2回目となるパステルをつかった絵にも注目してくださいね。

本誌に対するみなさまの率直なご意見やご感想をお聞かせください。ハガキ、ファックス、Eメールで受付しています。

■事務局 小野市男女共同参画センター（特定非営利活動法人 北播磨市民活動支援センター）
〒675-1366 兵庫県小野市中島町72番地 小野市うるおい交流館エクラ
TEL：0794-62-6765 FAX：0794-62-2400
URL <http://www.ksks-arche.jp/danjo/> E-mail danjo@ksks-arche.jp